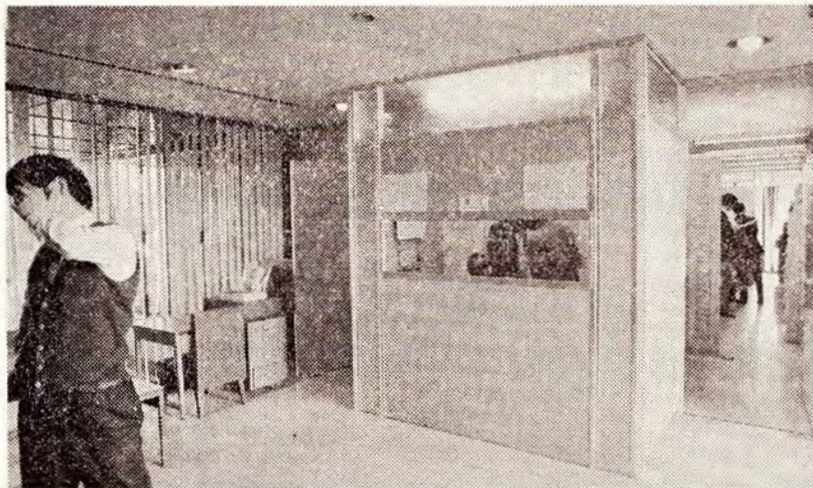


# 米中国交

# 電撃ニュースに驚き広がる



これからどうなる——亜東関係協会東京弁事処の受付前

## 「歓迎」「冷静」「警戒」

### 反応さまざま 在日関係者

米中国交樹立——太平洋をはさんだビッグニュースが十六日朝、ワシントンと北京で突然、発表された。ニクソン訪中で世界を驚かせてから六年ぶり。予想されていたとはいえず、大國アメリカは、とうとう台湾を切り捨てた。國交断絶、米軍の総引き揚げ。その電撃的な事、そして外交の現実、在日台湾関係者は「何も言うことはない」「心から歓迎する」と喜びにあふれる。親中国派の人々とは対照的だった。一方、日本の財界は、早くも米国の中国市場切り込みを警戒の声をあげるなど反応はさまざまだが、ともかくも、第二次大戦後ゆれ続けた米中、台湾関係に歴史的な区切りがつけられた。

東京港区東麻布一の八の五にある台湾当局の事実上の「大使館」亜東関係協会東京弁事処。鐘振宏文化広報部長は米国による「台湾切り捨て」という衝撃的ニュースに対して「また事実かどうか確認していない。またこういう問題について国外にいるわれわれは発言する立場がない」と口をつぐんだ。この日は土曜日のため、午前中は全職員が出動していたが「職員の間には動揺はありません」と同部長。しかし「何かコメントを」と重ねて要請すると「国内(台湾)から指示があるまでは何もいえません」と強い口調で断ったところ、衝撃の深さが現れていた。日本と中国の國交正常化以降、民間協定で日本に乗り入れている中華航空の関係者は「米中国交樹立発表について十六日朝「そんなことはわれわれの関係したことはない」とはき捨てるように述べるなど、当然のこととはいえ、激しい反応を示した。

「米中国交正常化」のニュースが届いた昼前は、ちょうど早朝と午後との便の間の最もヒマな時。台湾人職員は「私共は政治とは関係ない。話は本社で聞いて欲しい」と冷たく言い放った。

台湾系華僑団体の中華民国留日東京華僑総会(二万三千人)は「日本もアメリカもイデオロギー的には自由主義國家。四十七年の日台國交断絶のときも結局、大きな混乱は起きなかったと冷静。台湾からの留学生には、大きなショックを与えた。来年、九州大学を受験するという台北出の女子留学生(二)は「いつかはこうなる」と思っていました。こんな早

いとは思いませんでした。ショックです。中国は台湾を武力侵攻するでしょうが、台湾国民はみんな戦う気持ちを持っており、ベトナムのようにはならないでしょう」と語っていた。

一方、こうした台湾系の人々の衝撃とは対照的に、日中友好協会全国本部・宮崎理事長は「日中平和友好条約に引き続き、世界情勢に大きな変化を与える出来事として、心から歓迎する。アメリカではこの数年、学生、労働者などを中心メンバーとした「米中友好協会」の活動が活発になっており、日本側からも、米中国交回復運動をすすめるための意見書を同協会に送るなど、関係が深かっただけに、一層よきこは大きい」と語っていた。

### 財界、素早く歓迎コメント

日本の財界筋は、いち早く「歓迎」のアドバルーン。土光敏夫経団連会長は「当然であり、世界の安定のために歓迎する」とコメントを発表。

「米中が國交を樹立することは当然であり、早速実現すると思っていた。ある意味では遅すぎた」と

中野謙雄・東京外語大教授(國

際関係論)は「二口でいうと、いよいよ来るべき時代がきたなと思うと同時に、ずいぶん長い時間がかかったと感じる。今回の措置は中国にとってより大きな意味を持っている。中国は、いまだ大きな転換期を迎えている。四つの現代化をすすめるうえで、日米の協力が必要で、日中との段階となった。これで米日中の対等同盟が形成された形となる。中国は東方の新NATO結成が必要だ」としており、米日中の軍事防衛協力体制を望んでいるのではないかとと思われる。だから、今回の措置は、國際政治のうえでニクソン訪中当時とは違うウエートを持っている」と、変転がわまりのない外交の世界を分析していた。